

縄文式竪穴住居「大地の気場庵」建設から学ぶ文化や自然

猪風来

活動の目的

世界最古級の土器文化「縄文」は1万5千年以上前の日本列島に生まれ、独自の造形美と豊かな精神性を花開かせました。この母なる大地に根ざした縄文スピリットに学び、未来に生かす現代縄文アートの美術館として猪風来美術館（新見市法曾陶芸館）は開館以来11年活動してきました。年2回の縄文野焼き祭りや陶芸教室、また地元法曾に伝わる古陶「法曾焼」の復興をなし、縄文造形と法曾焼の融合した縄文法曾陶の作品発表など。最近若い世代を中心に縄文をキーワードに多ジャンルにわたる創作をする人たちが「ARTs of JOMON」展を各地で開催、また縄文に魅力を感じ遠方より参集する人が増えています。縄文の大地観の根源ともいえる「縄文竪穴住居」建設を通じて、自然との関わり合い、生命の循環、豊穡への祈りを共に学び、新たな文化芸術の創造の基礎とし、地域からの文化発信をしていきたい。

活動の内容及び経過

法曾焼同好会員と猪風来美術館、猪風来縄文塾、賛同する県内外の個人が縄文竪穴住居建設に挑戦。市内外の協力者延べ235名で完成。

【竪穴住居建設】 カヤ・ススキ収集や柱のクリ材・横木の伐採など近隣で材料を確保し、内径5mの縄文竪穴住居を建設。木の皮むき・御柱立て・茅葺きなど随時猪風来縄文塾を開き、各方面の方々に呼びかけて作業を進めた。道具の提供・資材提供・知恵の提供など多数あり、また協力してくれた人数は延べ235名になった。

【縄文体験ワークショップ】 地元の井倉小学校児童33名が遠足で訪れ、出来たての竪穴住居に入り縄文体験。縄文の話・火おこし・土器土偶づくりや石器体験をした。

【完成祝いとお披露目】 秋の縄文野焼き祭りにおいて250名ほどの方々が竪穴住居を見学また米国先住民ホピ族のルービン氏親子が祝いの儀式ホピセレモニーを行い交流した。

【冬至祭り・講演会】 冬至の日の入り方向に入口を設計してあることから冬至祭りを開催。縄文太鼓演奏や舞など。また岡山大学の松本直子教授による講演会「縄文の住居・ムラ・世界観」を実施。

活動の成果・効果

法曾焼同好会の地元住民の方々と市内外の協力者の知恵や力を合わせて近隣の自然素材の採集、雑木伐採作業、柱組み立て、屋根葺きなどを行うことで、過疎の集落での活気や自信を生み出した。また地元井倉小学校との交流の中で子供たちが自然に依拠する日本の縄文文化を体験する活動を通して豊かな感性と縄文文化に対する興味を深めた。



更に建設や祭りに関わることで縄文の心と技を学び、各地から参加した方々が世界に誇る縄文土器の造形文様の生まれてきたその根源を体感し、現代縄文アート創造の今日的意義と魅力を確認できた。

今後の課題と問題点

現在猪風来美術館を拠点に縄文野焼きや縄文造形の陶芸教室を開催していますが、今回の活動は地域の高齢者の知恵と力を借りながら、若い世代も含めた各地からの協力者が一緒になって成し遂げた。しかし新見市法曾地域では過疎高齢化が進み人口減・空き家が増えるなど深刻です。

- 所在地：新見市法曾
- TEL：0867-75-2444 ●E-MAIL：mail@ifurai.jp
- URL：http://www.ifurai.jp/
- 設立年：2005年